兵庫県保険医協会神戸支部　研究会のご案内

こどもを診る Art　さらにその先へ

～小児救急的思考回路～

日　時　9月2日（土）午後5時～6時30分

会　場　兵庫県保険医協会５階会議室

（JR･阪神元町駅東口を出て南へ徒歩７分）

講　師　兵庫県立こども病院救急総合診療科

部長　**林　卓郎**先生

参加費　無料

“乳児はしゃべる事ができないから難しい”“こどもって小さいから…”などと言って諦めていませんか?

“子供は痛がりだから”“どうせ言っても分からないから”などと言ってませんか。

月齢・年齢に応じた発達でできること、分かること。皆さんで確認していきましょう！！　その上で、知っておいて損はない、こどもの病気・怪我の特徴。これらについておはなしさせて頂きたいと思います。色々な症状・主訴で救急外来にやってくるこどもたちの症例を提示し、みなさんにも一緒に考えて頂くことで、こどもの特徴について皆さんと共に学ぶ 90 分にしたいと考えております。　【林　記】

＊お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当　小西・呉（ゴ）まで

- ー 【神戸支部研究会参加申し込み】FAX 返信：078-393-1820 - -

参加申し込み

地区＿＿＿＿＿＿＿＿　医療機関・施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者お名前＿＿＿＿＿＿＿＿　参加人数　　人　TEL＿＿＿＿＿＿＿＿

--- ＺＯＯＭによるオンライン参加申し込み ----------

右の二次元コードもしくは下のアドレスからご登録お願いします。

自動返信メールでアクセス方法等をお知らせします。

https://x.gd/Mtb5X

兵庫県保険医協会
神戸支部ニュース
367 号
2023 年 08 月 25 日付

発行　兵庫県保険医協会神戸支部
〒 650-0024　神戸市中央区海岸通 1-2-31　神戸フコク生命海岸通ビル５Ｆ
兵庫県保険医協会　TEL078-393-1801　FAX078-393-1802

職員接遇研修会

「ホスピタリティ」で患者さんの信頼を得よう

榊原陽子先生（左）を講師に、「ホスピタリティ」を表す実践として、良い印象を与える自己紹介を練習

神戸支部は、７月８日（土）に職員接遇研修会を協会会議室で開催し、会員・職員ら 30 人が参加した。社会保険労務士で株式会社マザーリーフ代表取締役の榊原陽子先生が「これだけは押さえたい患者接遇の基本　～クレーム対応も含めて～」をテーマに講師を務めた。

榊原陽子先生は医療機関の患者接遇に大切なことは「ホスピタリティ」であるとし、マナーとホスピタリティの違いについて、マナーは相手を不快にしない、ホスピタリティは相手の気持ちをプラスにするような行動であると説明。ホスピタリティの三つの要素（物的要素、機能的要素、人的要素）のうち人的要素は、もっとも重要であり、相手の気持ちを察し、思いやりのある行動を、どのように伝えるのかを理解するためには自分を良く知り、積極的に行動できることが不可欠であることを述べた。

その上で、ホスピタリティの目指すものは、違いを肯定的に受け止め、「やさしさ」「思いやり」を伝えたり、「相手の立場に立った言動をすること」だけではなく、相手も自分も共に幸せを手に入れることであることも指摘した。

「聴覚障害者の医療を考える会」で「目の病気」のお話

目にいい生活習慣をつけていこう

神戸支部は５月25日（木）、神戸市総合福祉センターで健康と医療について語り合う会を開催した。これは聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会（いのちを考える会）」の講師派遣の要請に応え、神戸支部が運営に協力しているもの。今回は、「目の病気一気に教えてもらう」を開催。灘区・山中眼科の山中忍先生を講師とし、31人が参加した。当日参加された方の感想を紹介する。

２カ月に１回「命を考える」を開催していただき、いつも感謝しております。「目の病気、一気に教えてもらう」というテーマで学習しました。

山中忍先生が目の病気の予防対策について講演し、
手話通訳を介し聴覚障害者らが熱心に聞き入った

目に関する用語に対して難しく感じたけれど、先生がゆっくり丁寧に説明したり、ホワイトボードに書いてくれたおかげで十分理解できたと思いました。

用意してくださった資料のおかげで、いい勉強になったと思いました。これから目を酷使しないように十分に生活して過ごすことが大事だと思いました。

ホワイトボードを使って
専門用語などを解説

耳が聞こえない人にとって身近であるテーマだったのです。何回も繰り返して学習するべきとかんじました。

今後も「命を考える会」はとても大事です。情報氾濫になり、私たちにとって分かりづらくて、十分に困ることが確かにあります。これから参加して十分に学びながら体の健康に対する知識を高めていきたいです。

【神戸ろうあ協会垂水支部　荒木　恭子】

東灘区社会保障推進協議会第24回総会・記念講演

社会保障給付抑制のための マイナンバー制度の危険性訴え

（上）健康保険証廃止の問題点について学習した
（左）口分田真支部幹事が会長に再任

神戸支部が地域の住民や商工団体などとつくる東灘区社会保障推進協議会は7月27日、第24回総会を東灘区文化センターでオンライン併用で開催。加盟各団体などから25人が参加し、2022年度まとめと2023年度方針案、会計報告、役員提案が提案され、承認された。口分田真神戸支部幹事が会長に再任された。

記念講演は、「何が問題かマイナンバーカードで健康保険証廃止」をテーマに、自治体情報政策研究所代表の黒田充氏が講演。黒田氏は、現在進められているマイナンバーカードと保険証との一体化について、医療機関のオンライン資格確認システムの仕組みやマイナンバーカードの保険証としての利用登録など制度の仕組みを具体的に説明した上で、マイナンバー制度に関わるさまざまな不具合の根本的な原因は、制度そのものの設計の失敗（共通番号制度の採用）にあるとした。そして、マイナンバー制度の出発点は小泉政権時に検討された社会保障番号であり、その番号で集めた個人情報をもとに、国民一人ひとりについてプロファイリングすることで社会保障給付を抑制すること、さらに医療や介護などの個人情報を民間企業の儲けのために利活用することが目的であると指摘。

ＥＵは、ナチス・ドイツや旧東側諸国の監視社会の反省から、「プロファイリングされない権利」を認めているが、日本では、個人情報に関する権利が確立していないことが問題であるとし、津市の児童相談所がＡＩを活用したシステムを参考にして保護見送りを決定したことで母親による娘への傷害致死事件が起きたことを例に挙げながら、マイナンバー制度の活用が進むと、医療や介護、福祉などの社会保障制度からの排除や制限、選別による人権侵害が起こる可能性があると警告した。現在、反対の声が広がる健康保険証廃止の撤回を一致点として、大きく運動を広げ、日本でもプロファイリングされない権利、個人情報保護の権利を認めさせることが重要であると訴えた。